

## ユニバーサルデザイン推進のための5つの視点

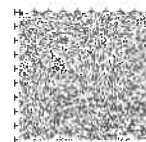
ユニバーサルデザイン推進の原則を5つに整理し、事業やものづくりなどを進める場合において、ユニバーサルデザインの考え方が生かされているかどうかをチェックする時の視点として使用することにします。



### 視点1 すべての人に使いやすく便利であること



様々なものの利用に当たっては、楽な姿勢で、また、十分なスペースが確保されているかなどの観点から、使い勝手の良さが求められます。さらに、力の有る無しや背の高さなどに関係なく、誰にとっても使いやすいかどうかなどもユニバーサルデザインを推進する上で重要な視点です。



## 視点2 すべての人に分かりやすく簡単であること

建物や製品に限らず、情報・サービスなども含めて、様々なものが、できるだけ簡単に入手でき、分かりやすいこと等が求められます。



## 視点3 すべての人に公平であること (機会の平等)

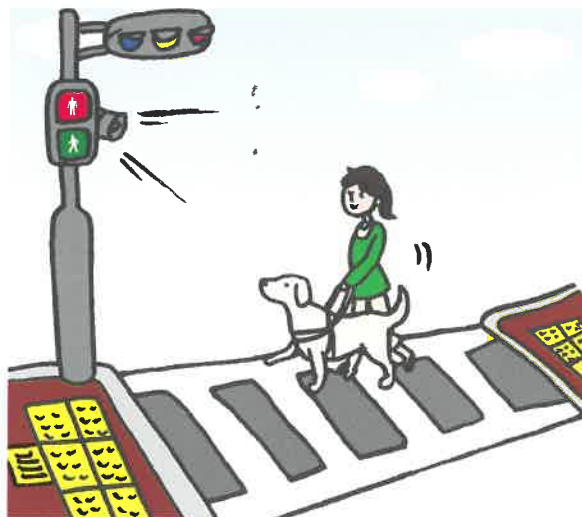


自動ドア

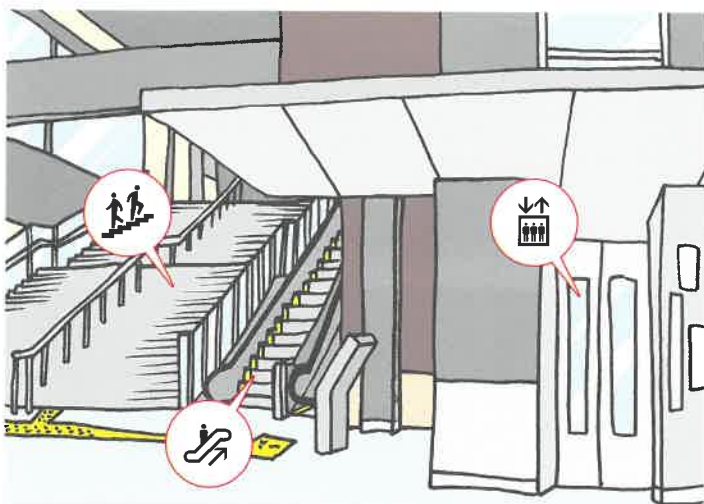
すべての人に対し、情報やサービスの提供が公平に行われ、また、誰もが利用できるようなにつくられ、かつ容易に入手できることやプライバシー等への配慮が求められます。

## 視点4 すべての人に安全で安心であること

ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながらないように配慮されており、防災、環境面を含めた広い視点での安全・安心が求められます。



## 視点5 選択肢があること（柔軟性があること）



できる限り利用する人の身体機能や能力などに合わせながら、汎用性のある形での解決策を考える必要があり、また、様々な状況の変化にも対応できることが求められます。

